

まちがいがし

クイズ

上下の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはラブーナの湯無料利用券をプレゼントします。

応募締切

1月15日(水)

企画広報課 ☎66♦1145

応募方法

ハガキまたはファクスに、①答え(左の絵に○をつける)と②住所・③氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話番号・⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり3月号に掲載しますので、ご了承ください。

送り先

〒443-8601 旭町17番1号
企画広報課「クイズ」係
FAX66♦1190

とうふねこ座：市川雅子 画



大塚の田の神様(大塚町)

御堂山から吹き降ろす寒風が蒲郡東高校の校舎の間を抜け、田や畑を駆け抜ける。田の神古墳の上に田の神さんの小さな祠がある。

その横でニコニコして見下ろしている人がいる。田の神さん(冬は山の神)と、亡くなった村のじいさんの魂だ。二人が立っている古墳から南の方向一直線上に神明社があり、さらにずーっと先に伊勢の神島や、伊勢皇大神宮(いせこうだいじんぐう)が見えている。

「ほんにまっすくつながつているんじゃないの?」じいさんが言う。

「ここ大塚は、昔伊勢神宮の神領で、あそこに見える神明社は伊勢神宮に使われていた材木を使って建てられているのよ。そんだけ伊勢の皇大神宮とは深い関係があるのよ」と、田の神さんが答えた。

「なるほど、あのー田の神さん、あんたって意外と忙しいらしい」

「そーなのよー」

「田の神さん、あんた稲作が始まった春に、里へ下がって山の神から田の神さんになったの?」

「そーよ。私は田の神になって、田仕事している人たちを見守ったり、稲たちがすくすく伸びて豊作になるようお助けをするのよ」

「ほーかあ、ほいで秋の刈入れが終わったら山へ登って来て、山の神さんになったの?」

「山の神になって草・木・実の管理をしたりけものたちを見守っているの」

「あんたは食べ物のかみさんじゃの?」

「そーよ。私はまたの名を稲霊様(いなだたまさま)といい、倉稲魂神(うげんたま)多麻(ま)うがのみたまのかみ」とか豊受媛神(とようけのみこと)とか言われている農耕神(のうこうしん)ですわ。私は山と里を見守り豊作をもたらし、みんなのお腹をいっぱいにするためにがんばっているのよ」

田の神さんといいさんは正月の空気をめいっぱい吸い込んで、みんなのために今年の豊作を祈った。

農耕神がいか所にとどまらず特定に時期に特定の場所に来臨するという信仰を、山の神・田の神の春秋去来の伝承と言います。

6~7世紀の後期古墳時代の田の神古墳の横穴式石室を利用して田の神様が祀られています。神明社の末社にも倉稲魂神を祀る稲荷神社があります。

【参考資料】 大塚・相楽ふるさと博物館資料集



◆11月号の答え

11月号まちがいがしクイズ(山本君、戦国時代に行く)の当選者
応募総数78通
正解者71人
当選者(敬称略・50音順)
三谷北通 稲垣重吉
竹谷町 酒井洋子
三谷町 鈴木マサエ
豊岡町 武石留吉
形原町 田中繁子
大塚町 中山由美子
平田町 西浦尚美
神ノ郷町 林 保男
竹島町 山口義弘
松原町 山本秋子
おめでとございませう。賞品は1月初旬に発送します。